

# こおろぎ

発行日 2004年5月1日 **No.134**  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
URL <http://www.origin-co.com>

## 人生、何とかなる！

数年前、ある女性から「父が亡くなった」という連絡がありました。彼女のお父さんは、奥さんが癌で亡くなられた後、一人で会社を経営されていたのですが、得意先の倒産と株の損失のため経営が行き詰まり、自分の人生に幕を下ろしたのです。

彼女は、婿を取るはずの長女であったのに嫁に出てしまい、両親と一緒にいてあげられなかったことに責任を感じていました。また、彼女には子どもがいなくてもあって、嫁いだ先にさらに金銭的な負担をかけることに申し訳なさを感じて、「父も母も、育った家も、何もかもがなくなってしまう気がする」と言っていました。

私にはかける言葉はありませんでしたが、「あなたが誠実であれば、必ず何とかなるから大丈夫だよ」と励ましたのを覚えています。

彼女は感傷に浸る暇もなく、父の借金の清算のため、これまでにお世話になった方々のところに挨拶に何うと共に、実家の土地を実働価格より高く買ってくれる人はいないか捜して回りました。その努力の結果、以前からお付き合いしていた社長が、その土地を負債総額と同じ金額で買ってくれたのです。

購入してくれた社長様もスゴイと思いますが、彼女のようなひたむきな努力を私は出来るだろうかと考えさせられたものでした。

借金の清算が終わったとき、彼女は「杉井さんに相談したころは、全てのものがなくなるような気がしていましたが、終わってみたら何もなくなりませんでした。父も母も実家も私の心の中に残っているし、友達も主人の家族も離れるどころか、みんなが応援してくれました。おかげで何一つなくなりませんでした」と言っていました。

「会社」と「自分」とを一体化してしまうと、会社が倒産したら自分の人生も終わりになるような気がするものですが、私はそのように考えないでほしいと思っています。そうでないと「全てを失う」という不安から、本当に大事にしなければならぬものを見誤り、最も大切な信頼や命までなくしてしまうことになる、最近のニュースを見ていて思うのです。

少し前に沖縄に講演に行ったとき、接待してくれたオバサマ達が、「本土の人達はだらしがない！ 沖縄の人間は、一晩で地形が変わるほどの経験もしたし、生まれてから3回も通貨が変わった。車も右を走ったり、左を走ったりしたが、それでも元気にやっている。それなのに本土の人は二言目には『不況、不況』と言っている。私たちは、ずっと不況だよ！」と熱く語ってくれたのを思い出します。

人生には、「どうにもならない」と思えることがあるものですが、誠実に生きてさえいれば、結局は何とかなるものだとは私は思っています。大切なことは、そのとき何を大事にし、どう生きるかということ、彼女から学んだ気がします。

私もごまかしたり、人を非難したりせずに、生きていきます。

## こおろぎが本になりました！

「不完全なあなたへ」 - 幸せに生きる秘訣 - (文芸社)

「こおろぎ」が、株式会社イエローハットの相談役、鍵山秀三郎様に推薦のお言葉をいただき、一冊の本になりました。

十年間の「こおろぎ」への思いを、「まえがき」と「おわりに」に込めたつもりですので、是非、読んでください。

6月には全国の書店に並ぶ予定ですが、店頭がない場合でも、同封のチラシでお取り寄せが可能です。

## 静岡八ガキ祭り

4月18日に「第一回静岡八ガキ祭り」を開催しました。

友人の増田浩章さんが複写八ガキ2万枚を、天野績男さんと立林浩明さんがそれぞれ1万枚を達成した記念の会です。

これは「八ガキをたくさん書いたから偉い」ということではなく、それだけ多くの八ガキを書けたのは、書く相手に支えられてのことなので、そのお礼の会を開こうということになったのです。

講師の半田正興さんの指導で似顔絵入りの絵手紙を描き、みなさんの自己紹介で会は進んでいきました。

記念すべき、申込み一号は、九州の石川健次さんご夫婦でした。

石川さんは、郵便局の局長をしているときに網膜剥離にかかり、ほとんど失明してしまったのですが、目が不自由な方とは思えない、素晴らしい字や絵を描かれます。郵便局を退職された後は、盲導犬のための募金活動と八ガキ絵の振興に尽力されている方です。

そんな石川さんに「今度、静岡で八ガキ祭りをやります」とお便りしたところ、「夫婦で参加させてもらいます」と、すぐに返事が来たのでした。何と豊かな人生でしょう！！

また、山梨からは小児癌で足を切断した高遠翼君が、ご家族と参加してくれました。

先日、ある小学校で「将来、どんな人になりたい？」と尋ねたところ、「お金持ち」という回答が多くて、少しショックを受けましたが、大人でも「お金持ちになることが、幸せになることだ」と考えている人が多い気がします。しかし、本当にそうなのでしょうか？

人生を損得で考える人にとっては、お金を払って休日に「八ガキ祭り」に出掛けることは、意味のないことかもしれませんが、やさしい人生、温かい人間関係を「幸せ」と感じる人にとっては、とても豊かな時間になったと思います。

参加してくれた皆さん、本当にありがとう！

これからも豊かな人生を刻んでいきましょう！

## 立林浩明さん(小学校教員)の体験発表から

教え子の小学1年生からいただいたお葉書をご紹介します。

「たてばやしせんせい おげんきですか。おはがきをくれてありがとうございました。がっこうときゅうしょくがすきになりました。たいいくがたのしいです」

この子は入学当初、環境の変化から給食がほとんど食べられないでいた男の子です。そのことを踏まえて読むとなんだかゾーンとくるものがあります。もう一枚。

「せんせいへ せんせいはいつもじがじょうずだね。これからもじをてえねえにかいてね」

この八ガキには、次のようなお母さんの添え書きがありました。

「国語の教科書以外の字は読もうとしない娘が、一文字ずつ読み上げていました。嬉しかったのか「返事、書く」と言って、あの子お気に入りのレターセットを取り出し書いていました」

この女の子は、少しだけ言葉の遅れがあって言葉の教室に通っています。

二つとも、すべてひらがなで、鉛筆の下書きの上からペンでなぞって書いてあるのがなんともいじらしいです。このようなお葉書に私がどれほど勇気づけられたかわかりません。これらは、私のはがきのお手本と言えます。

この子たちを葉書の先生として、少しでも相手を喜ばせる葉書を書いていきたいと思っています。